

# 伊那谷リニアバレーNEWS

～長野県にリニアがやってくる！～

VOL.9 令和6年2月13日発行  
長野県 建設部 リニア整備推進局  
TEL:026-235-7016  
FAX:026-235-7482  
E-MAIL:linear-kyoku@pref.nagano.lg.jp

## ■リニア中間4駅による広域中核地方圏の創造と国土構造の改編シンポジウムが開催されました！

リニア中間駅（4駅）を中心とする地域活性化に関する検討委員会主催のリニア中間4駅（神奈川県、山梨県、長野県、岐阜県）による広域中核地方圏の創造と国土構造の改編～日本をエンパワーメントする～シンポジウムが11月6日（月）、東京都にて開催されました。

同委員会では、先端的デジタルインフラ整備や、高規格道路網の形成、産業集積など地域活性化策に関する報告書を取りまとめ、これに合わせて企画されたものです。

中間駅4県知事やJR東海社長が各県の状況や構想を説明し、阿部知事も持続可能な環境地域づくりの実現や豊かな自然環境と独自の文化を活用した教育・学びの先進地域づくりの促進などについてプレゼンを行いました。

シンポジウム終了後、4県知事が首相官邸を訪れ、内閣総理大臣に対し、開業時期の見通しを立てることや4県それぞれの構想を踏まえた地域活性化への支援を要望しました。



シンポジウム(パネルディスカッション登壇者)



総理大臣要望(中間駅4県知事)

## ■県外大学生が外国人向けのバスの乗り方を英語動画に！～南木曽町と名古屋外国語大の取組～

南木曽町と包括連携協定を結ぶ名古屋外国語大学（愛知県日進市）の学生が、南木曽町内を走るバスの乗り方を英語で説明する外国人観光客向けの動画を作成しました。

昨年9月に町内でフィールドワークを行い、旅行者や住民らに直接話を聞く中で見えた課題の解決に向けた取組みで、外国人旅行客の利便性向上やバス運転手の負担軽減を図る目的です。

既にJR南木曽駅から妻籠、馬籠宿（岐阜県中津川市）を結ぶバスの停留所には、動画へつながるQRコードを載せた案内が掲示されています。動画を作成した学生は、今後はSNSを活用した南木曽町の魅力発信にもチャレンジしたいとのこと。リニア開業により、海外からの利用客が増え、地域の活性化に繋がることを期待しています。

■伊那谷・木曾路のワクワクする未来を考えました！～伊那谷・木曾路「空飛ぶクルマ×リニア」ワークショップを開催～

令和5年12月19日（火）、エス・バード（飯田市）にて、県が主催し、上伊那・南信州・木曾地域の自治体職員や観光事業者、交通事業者等を対象としたワークショップを開催しました。リニア駅が出来る伊那谷において、2次交通や広域観光の重要なツールになり得る「空飛ぶクルマ」について、国内外の最新の動向を学ぶとともに、活用方法や導入した場合のメリットやデメリット、どんな方々と繋がりたいか等、自由闊達な意見交換を行いました。

■“大人”が探究できる？～第3回伊那谷 de キャリア教育研修会を開催～

令和5年12月10日（日）、「豊丘村ゆめあるて」にて、産業界や学校関係者等を対象とし、今年度は「大人のための探究」をテーマに開催。地域の課題である放置竹林の対策に取り組んでいるNPO法人いなだに竹 Links 及び高森町から事例発表をいただきました。

また、全国各地の学校に赴き、地域の多様な人たちがともに成長する場をつくる「ジェネレーター」として活躍している市川力（いちかわちから）氏を講師に招き参加者と意見交換を実施。大人も子どもとともにワクワクしながら面白がり、学び続ける姿勢が重要であることに参加された皆さんは感銘を受けていました。

今後も学校、産業界、地域の枠を超えて、地域の未来を考えてまいります。



第3回伊那谷 de キャリア教育研修会の様子

■「次世代エアモビリティシンポジウム」が開催されました！～飯田市等の取組み～

飯田市と南信州・飯田産業センターは、「空飛ぶクルマ」や「ドローン」など新たな空の交通技術について考える標記シンポジウムを令和5年12月23日（土）、エス・バード（飯田市）で開催しました。

パネルディスカッションでは、佐藤飯田市長も登壇し、地元企業代表者等と南信州地域における空の移動革命の可能性について意見交換を行いました。また、会場にはドローンの実機や空飛ぶクルマの実寸大の模型の展示の他、VR飛行体験も行われ、来場された皆さんは新たな空の移動技術について、身近に迫って来ている未来を実感していました。



## ■第1回リニア駅アクセス検討会議及びリニア駅前広場活用検討会議合同全体会を開催しました！

令和5年11月16日（木）飯田市役所にて、県と飯田市の共同事務局による、リニア駅アクセス検討会議とリニア駅前広場活用検討会議の合同全体会を開催しました。

リニア中央新幹線の開業効果を県内に広く波及させ、地域振興や伊那谷の行政、商工観光関係機関が交通網の整備などで連携を図ることを目的としており、開業を見据えて協議・検討を進めてまいります。

各検討会議ではそれぞれ5つの分科会に分かれており、アクセス検討会議では長野県駅（仮称）からの二次交通の検討をテーマとしており、乗降客の交通手段や、「空飛ぶクルマ」といった新モビリティの導入に向けた研究などについて検討してまいります。

駅前広場活用検討会議では駅の高架下空間の活用や、交流広場を生かした情報発信・イベント開催をテーマとしており、観光・移住関連情報の発信や飲食・物販などについて議論を深めてまいります。

今後、両会議とも分科会を隔月で開催し、年に1、2回の全体会にて報告を予定しています。



第1回リニア駅アクセス・駅前広場活用検討会議全体会の様子

## ■JR 東海がリニア沿線地域の魅力を発信～ポータルサイト「リニアでつながるまち」～

JR 東海はリニア中央新幹線の沿線や近接する自治体を紹介するポータルサイト「リニアでつながるまち」を公開しています。現在掲載されているのは、品川一名古屋間にある1都6県の47自治体。県内では、長野県の他、伊那市、駒ヶ根市、飯島町、中川村、飯田市、松川町、高森町、阿智村、下條村、喬木村、豊丘村、大鹿村、南木曾町の13市町村の豊かな大自然や伝統文化、食文化、歴史が紹介されています。サイト名の由来は「リニアの開通により、まちとまちが鉄道で物理的につながるだけでなく、交流が活性化することで広域的・心理的にもつながっていくことを表現した」とのこと。リニアを機に交流の輪が広がるといいですね。

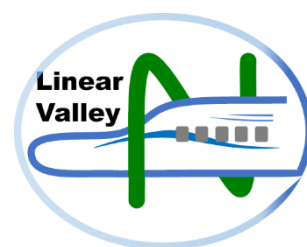
<https://market.jr-central.co.jp/lineartown/>

リニア中央新幹線が生み出す  
“未来の出会い”  
出会うの舞台となる“まち”をご紹介します



県リニア整備推進局では、リニア中央新幹線開業に向け、気運の醸成を図るため、資料などへ使用できる右のロゴマークを作成しました。

今後、資料に貼付するなど積極的に使用していくほか、伊那谷リニアバレーNEWSを読まれる皆様にも、使用していただきたいと思います。利用をご希望の場合、担当までご連絡ください。（連絡先：026-235-7016）



©長野県